提出締め切り: 帰国後１ヶ月以内　　提出先: shien@asafas.kyoto-u.ac.jp

京都大学大学院　アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度　派遣報告書

報告者氏名　　江岸　伸　　平成２１年度入学

1.研究課題：

インド保健医療の現代的展開と課題

2.派遣期間：

平成　　２３年１０月７日　～　２３年１０月２０日　　（１５日間）

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

渡航前、私はフィールドワークを通じてインド北西部のヒマチャル・プラデシュ州（以下、HP 州）の保健医療についてより具体的な知見を得たいと考えていた。

フィールドでは、HP 州の保健医療に関してインドの他州と比べて際立って特徴的な点を把握できた。まず HP 州では公立病院の利用率が非常に高く、州保健サービスの住民からの信頼が伺えた。一般にインド社会では公立病院は予算の不足や非効率性から低質なサービスしか提供できず、たとえ治療費が高額でも質の高い民間病院の需要が高いのが現状である。そのため貧困家計では民間病院の継続的な利用が難しい一方で公立病院のサービスも期待できない問題が存在し、対照的に HP 州が公的部門の機能によって保健指標を堅調に伸ばしていることは特筆すべきことである。また HP 州は住民の健康保険の加入率が 82%と非常に高いことも特徴で、インド平均が 10%以下ということに比べて強調すべき点である。こうした背景には HP 州の社会的要因や 2000 年代初頭に行われた保健部門の改革が関係していると思われるが、分析を進めることで今後の世界の保健医療の課題に有意な示唆をもたらすものと考えられる。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

次回のインドへのフィールド調査までの課題として、ヒンディー語の運用能力の向上を課題としたい。

今回のフィールド調査では、私自身が研究遂行に必要なヒンディー語を十分に習得していなかったため、聞き取り調査の対象がどうしても限られてしまったり、周囲の人との会話も英語だけでは表面的な情報しか得ることができなかった。

そこで今後については、研究に必要なヒンディー語に関しては少なくとも単語レベルで 100～200 ワード程度を整理し身に付けることを最初の目標として、研究手法の幅を拡げた上で HP 州の保健医療の総合的な理解を深めていきたいと考えている。長期の海外渡航や留学に関しては、直近の予定としてまだ考えてはいないが、その必要性について益々痛感していることから、研究計画の中で積極的な位置づけをしていきたいと考えている。

5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

研究を進める上で非常に助かった。私自身は 1 ヶ月内の臨地調査であったが、派遣期間に応じて支給額も柔軟に決定されるので、各自のニーズに沿うものであると思う。一方で私の場合、採択結果が出るのに 1 ヶ月近くかかってしまい、その間は今後の研究計画を立てづらくなってしまったのは多少の不便を感じた。

今後のプログラムに関しては、語学のトレーニングを集中して取り組める機会があればぜひ参加したいと考えている。

署名